



第 17053303001-0101 号 page 1/4

2017年(平成29年)06月16日

## 試験報告書

依頼者 有限会社 クリーンケア



検体 本報告書中

表題 殺菌効果試験

2017年(平成29年)05月12日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。



## 殺菌効果試験

### 1 依頼者

有限会社 クリーンケア

### 2 検体

- 1) 二酸化塩素調製液 A
- 2) 二酸化塩素調製液 B
- 3) 二酸化塩素調製液 C
- 4) 古布 (5×10cm)

### 3 試料の調製

- 1) 二酸化塩素溶液 10 ppm

50 °C±1 °Cに保温した精製水 48.5 mL に検体 1)～3)を順に 15～30 秒間隔で各 0.5 mL 添加したものを 15～30 秒の間に 10 倍希釈(50 °C±1 °Cに保温した精製水 4.86 mL に 0.54 mL を添加)したものを試料 1)とした。

- 2) 二酸化塩素溶液 30 ppm

50 °C±1 °Cに保温した精製水 45.5 mL に検体 1)～3)を順に 15～30 秒間隔で各 1.5 mL 添加したものを 15～30 秒の間に 10 倍希釈(50 °C±1 °Cに保温した精製水 4.86 mL に 0.54 mL を添加)したものを試料 2)とした。

- 3) 二酸化塩素溶液 50 ppm

50 °C±1 °Cに保温した精製水 42.5 mL に検体 1)～3)を順に 15～30 秒間隔で各 2.5 mL 添加したものを 15～30 秒の間に 10 倍希釈(50 °C±1 °Cに保温した精製水 4.86 mL に 0.54 mL を添加)したものを試料 3)とした。

### 4 試験片の調製

高圧蒸気滅菌(121 °C, 15分間)後風乾した検体4)1枚に試験菌液0.1 mLを数滴に分けて接種し, 室温で1～2時間風乾した。



## 5 試験概要

試料1)~3)に試験片を添加した。所定時間後に試験片を取り出し0.75%チオ硫酸ナトリウム加SCDLP培地で洗い出し、洗い出し液1 mL当たりの生菌数を測定した。また、あらかじめ予備試験(中和条件の確認)を行い、試料の影響を受けずに生菌数を測定できる条件を確認した。

なお、測定回数は3回とした。

## 6 試験結果

結果を表-1、試験条件を表-2に示した。

なお、試験片を0.75%チオ硫酸ナトリウム加SCDLP培地10 mLで洗い出すことにより、試料の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験により確認した。

表-1 洗い出し液1 mL当たりの生菌数測定結果

試験菌	対象	測定	生菌数(/mL)	
			開始時	90秒後
<i>Bacillus cereus</i> (芽胞)	試料1)	1	—	$2.6 \times 10^3$
		2	—	$3.9 \times 10^3$
		3	—	$3.5 \times 10^3$
	試料2)	1	—	8
		2	—	4
		3	—	<1
	試料3)	1	—	<1
		2	—	23
		3	—	<1
対 照	1		$8.4 \times 10^4$	$7.8 \times 10^4$
	2		$8.9 \times 10^4$	$7.2 \times 10^4$
	3		$8.3 \times 10^4$	$7.4 \times 10^4$

<1: 検出せず

保存温度: 50 °C

対照: 精製水



表-2 試験条件

	試験菌	<i>Bacillus cereus</i> IFO 13494
試験菌液	普通寒天培地[栄研化学株式会社]で35℃±1℃、7~10日間培養した試験菌の菌体を生理食塩水に懸濁させ、70℃±1℃、20分間加熱し、栄養細胞を死滅させた。この懸濁液を遠心分離して上澄み液を除いた後、菌体を生理食塩水に懸濁させ、菌数が約10 <sup>8</sup> /mLとなるように調製し、芽胞液とした。芽胞液を精製水を用いて希釈し、菌数が10 <sup>6</sup> ~10 <sup>7</sup> /mLとなるように調製し、試験菌液とした。	
保存条件	90秒(50℃±1℃)	
対照	精製水	
中和条件	試験片を0.75%チオ硫酸ナトリウム加SCDLP培地[日本製薬株式会社]10 mLで洗い出し	
生菌数測定	SCDLP寒天培地[日本製薬株式会社]、混釈平板培養法	35℃±1℃、 2日間培養

以 上